

地域の古着 集めて輸出

一戸町は、盛岡市の古着販売業ドンドンアップ(岡本昭史社長)と共同で、輸出による古着のリユース(再利用)を始めた。県内で初の取り組みで、町民から古着を集め、同社が東南アジアやアフリカなどに送る。日本の古着は海外で一定の価値を持つが、大半がごみとして焼却処分されているのが現状。同町は1年前から古着の回収を始めており、さらに活動を広げ、資源の有効活用とごみの減量を図る。

町民から提供された古着は町が1キロ当たり2円で同社に販売し、同社がマレーシアの連

回収箱設置、22カ国に 県内初、再資源化へ率先

携企業に輸出。選別した上、タイやカンボジア、アフリカなど22カ国で再使用する。古着として使えない物は、裁断して機械類を清掃する布切れなどとして活用する。

服のほか、靴やかばんなども受け付け、穴や汚れがあっても構わない。この事業のために町奥中山支所に回収箱を設置したほか、町役場窓口でも引き取る。

同社商品部の高橋徹さん(38)は「日本の古着は状態が良く海外でも人気があるが、再資源化の取り組みは遅れている。一戸を皮切りに岩手から資源循環を発信していきたい」と意気込む。

同町は2012年3月から、試験的に町役場窓口で古着回収を開始。町内の保育所や町内会などが回収した場合、1キロ当たり5円で買い取っている。今年2月までに4755キロ集まった。

町水環境課の福田栄樹生活環境係長は「町民にエコロジーへの参画意識を高めてもらいたい」と呼びかける。



一戸町とドンドンアップが共同で設置した古着回収箱。集めた古着は海外へ渡る。